

華人經濟 経営研究

～彼れを知らず己れを知らざれば戦う毎に必ず殆うし～

中国本土からアジア地域、そして世界にまで活動範囲を拡大するチャイニーズ。彼らのビジネスに対する考え方や習慣は日本人からすると異質にして独特で、理解しづらいものだといわれている。チャイニーズを総合的に「華人」ととらえ、彼らの多様な伝統文化と長い歴史から導き出された経営思想、心理と行動を体系的に分析し、華人圏や中国への進出に伴う総合的なノウハウを学び合う関西日本香港協会のみなさんの研究成果を紹介する。

中国人のモノの見方・考え方

①四人の古代思想家の影響

日本と中国の交流は2千年来の歴史があり、今年には日中国交正常化から42年になる。その間に、日本と中国はさまざまなビジネスや民間交流において付き合いを深めて来たが、日本人、中国人ともに、お互いの国の考え方や行動について、いまだに理解できないことが多いと聞く。ここでは、有識者の専門的意見と、私の個人的経験をもとにして、誤解を恐れずに「古代思想が中国人に与えた影響」を考えてみたい。

で、多数国家から中央集権国家へ、農産物の増産と商内、隆盛、鉄製農具の開発と富国強兵、戦争形態の変化と理想国家建設に必要な人材の養成が必要で、四人の思想家はこのような背景から輩出された。

(1)孔子(儒教)：人と協調してゆく原理(「自己人」対象)

BC6世紀に宗教性(祖先崇拜と葬式)と礼教性(仁義礼智信)で台頭してきた。紀元前5世紀(先知後行)13世紀陽明学(知行一致)に発展していく。孔子の生涯は「吾、十有五にして学を志し、四十にして惑わず、六十にして耳従う、七十にして心の欲するところに従いて矩を踰えず」という、この言葉通りであった。巫女(みこ)の非嫡子であった孔子は母

親の教育によって若くして諸国の国家顧問となつて各地を行脚した。今でいう単身赴任で、その境遇はいつた、故郷の魯で首格にまでなるが、全体としてはむしろ左遷・降格が多かった。それでも最後は故郷に帰り、弟子に囲まれて73歳の長寿を全うした。「論語」他は弟子たちによる孔子の言語録である。その後、歴代の皇帝の多くが徳治の手段として活用した。

(2)孫子(兵法)：人と競争する原理(「外人」対象)

孫武(BC6世紀)孫臏(BC5世紀)が創設者で、不戦の哲学・詭道である。春秋戦国時代は戦争の大規模化長期化により、国家の疲弊につながった。なぜなら、敗戦国は国家・民族の滅亡につながり、戦勝国も短期の回復が困難であった

からだ。そこで、「戦わずして勝つはどうか？」が兵法の基本になった(大阪大学大学院湯浅邦弘教授)孫子曰く「彼を知り己を知れば百戦危うからず」という言葉は非常に有名だが、「己」を知り、彼を知る」という順序ではないことに留意したい。

(3)韓非子(法家)：人を統治する原理

BC3世紀 戦国時代に儒教の徳治を批判したこと

人が中国人を誤解する一因にもなっている。最近の中国共産党トップのドイツでの反日演説などは他国を味方に付ける策略と考えて、堂々と対抗した方がよい。むしろ沈黙は容認と誤解されかねない。

儒教の徳治を批判したこと

中国の為政者の統治システムの基本になっている。有名な「矛盾」の語源も韓非子のものである。

儒教の徳治を批判したこと

と説いた。

儒家の思想

は人間の頑張り

りと前進を強

調し、道家の

思想は頑張り

こそ人間

を不幸にする

と説く。前者をアクセスと

すれば、後者は適度なプ

レキである。この2つが

なければ、人生の操縦は難

しい(湯浅教授)このため

中国人は歴史的に「上に政

策あり、下に対策あり」が

身についている。例えば、

国家緊急事態に備えて、優

秀な子息を海外留学させ

て、後で家族ごと移住する

ことを考えている。

以上から、現代中国人の

モノの見方と考え方に、4

つの古代思想が深い影響を

与えていることがお分かり

頂けたかと思う。これらと

は別に、中国人が長い歴史

の中で培ってきた「天」や

「公」の概念、さらには「民

族の知恵」である「グワン

シ(関係)や「メンツ」(面

子)も同時に理解する必要

がある。次回はそれらの成

りたちと日本人の考え方の

比較から考えてみたい。

(5月23日号に続く)



【藤澤慶彦(ふじさわよしひこ)さん】日本香港協会理事、サカイオーベックス株特別顧問。1962年スタンフォード大学政治学部卒(専攻:中国共産党史)。1963年慶応義塾大学法学部卒(中国の第1次5カ年計画)同年東レ入社、1967年東レNEY駐在、79年マレーシア/香港会社出向、85年テキスタイル貿易部長(英コートルズ社買収・新工場建設担当)、95年取締役(南通とチェコの織物工場建設担当)、97年常務取締役貿易部門長、98年在ヨーロッパ東レ代表

と説いた。

儒家の思想

は人間の頑張り

りと前進を強

調し、道家の

思想は頑張り

こそ人間

を不幸にする

と説く。前者をアクセスと

すれば、後者は適度なプ

レキである。この2つが

なければ、人生の操縦は難

しい(湯浅教授)このため

中国人は歴史的に「上に政

策あり、下に対策あり」が

身についている。例えば、

国家緊急事態に備えて、優

秀な子息を海外留学させ

て、後で家族ごと移住する

ことを考えている。

以上から、現代中国人の

モノの見方と考え方に、4

つの古代思想が深い影響を

与えていることがお分かり

頂けたかと思う。これらと

は別に、中国人が長い歴史

の中で培ってきた「天」や

「公」の概念、さらには「民

族の知恵」である「グワン

シ(関係)や「メンツ」(面

子)も同時に理解する必要

がある。次回はそれらの成

りたちと日本人の考え方の

比較から考えてみたい。

(5月23日号に続く)

現代に生きる四つの古代思想

その起源は春秋戦国時代にさかのぼる。この時代は中国の歴史上の大変動期

からだ。そこで、「戦わずして勝つはどうか？」

が兵法の基本になった(大

阪大学大学院湯浅邦弘教

授)孫子曰く「彼を知り己

を知れば百戦危うからず

」という言葉は非常に有名

だが、「己」を知り、彼を知る

という順序ではないことに

留意したい。

兵法三十六計(17世紀)

孫子の兵法が崇高な理念

であるのに対し、これは日

常を生きる実践指針であ

る。「指桑罵槐」「無中生有

」「遠交近攻」「美人局」など

三十六兵法がある。中国人

は親族一族が生きたために

幼時から「戦わずして勝つ」

ことを教えられる。そのため

の策略は当然である。中国

人は「策略を導ぶ」が日本

人は「策略を蔑む」(香港

貿易発展局古田茂日本首

席代表)このことは、日本

を殺した。以来この原理は

れ、人間万事「塞翁が馬」

(5月23日号に続く)